

# 令和5年度事業計画

## 《企画運営本部》

### 1、「社会福祉法人博愛会 中長期計画 2021年～2025年」について

- ① 社会福祉事業を主とした福祉サービスの供給主体の中心的役割を果たす。
- ② 制度の狭間にあるものを含め地域のさまざまな福祉需要にきめ細かく対応する。
- ③ ご利用者の日常生活を止めることのないよう災害対策や感染症予防対策及び発生時対応についての法人内相互応援体制を整える。

その遂行のため、社会福祉法人博愛会では「良質なサービスの提供」「健全な運営」「地域貢献」を3本柱に、以下の基本姿勢の重点課題に対して実現可能な展開目標を設定し、中長期計画を立案する。

### 2、「社会福祉法人博愛会 中長期計画表」 展開目標の設定理由

#### <経営に対する基本姿勢>

- ・ 法人内組織強化
  - ：業務内容及び方法を、統一できるものについては法人にてチャート表を作成し、周知徹底を図り、働き方改革等、各種法整備がなされる中の法令順守等については、細則及び様式等を作成し、法人統一での理解及び実施を行った。介護保険事業所における介護職員等特定処遇改善加算取得や処遇改善支援金・最低賃金の上昇に伴う、各事業所間、各職種間などの給与体系のバランスやキャリアパス等も含めた給与規定の見直しや、合わせての就業規則の変更などが必要なため、現在の社会情勢に応じてその整備を行う。
- ・ リスクマネジメントの推進
  - ：事故発生の防止と発生時の適切な対応について、各事業所にこれまでの取り組みに加えて、制度改正に対応かつ実効性のある安全対策部門を設置し、安全・安楽・自立の介護の3原則をさらに遵守するため、「リスクマネジメントの推進」とした。
- ・ 安定した財務基盤の確立
  - ：改正社会福祉法により単年度事業活動収益30億円以上の社会福祉法人は会計監査人の設置が義務付けられた。当法人は該当法人であり、また拠点が県内他市にわたるため、更なる内部統制強化、法人内の規程等の正しい理解共有ができるよう、各事業所の事業計画にて設定された事業進捗状況、目標利用率の進捗状況、収支についてのデータ作成及び分析など月1回の「博愛会経営会議」において確認を行う。

：入所施設においては実利用率95%を目標値とする。

#### ＜支援に対する基本姿勢＞

##### ・法人理念の理解と実践

：良質なサービスの提供のためには、「常に利用者の立場に立って考え、行動する」の理念の実践が必要であり、理念の本質的な理解がされていなければ実践も行えないため、引き続き「法人理念の理解と実践」を目標とした。一昨年までの各拠点の満足度調査結果は、76%～100%であり、法人全体とした場合の平均は88.7%である。最近では福祉介護の養成校以外の高校卒新任職員の採用が主流となってきたため、業績評価指標として、「挨拶 NO.1 事業所」を掲げ、対人援助の基本「挨拶」の徹底を行う。

##### ・サービス体制の充実

：感染症や災害が発生した場合であっても、必要なサービスが継続的に提供できる体制を構築する観点から、すべてのサービス事業所を対象に、業務継続に向けた計画等の作成、研修の実施、訓練（シミュレーション）の実施を行うことが必要であるため、業務評価指標を「BCP(事業継続計画)の作成及び法人内連携強化」とした。

##### ・問題点の抽出及び課題の共有

：サービスの質の向上については、まずは現状のサービスの把握、可視化、共有が必要であるため、現状の問題点を抽出し、それを整理し、課題への転化を目標に「問題点の抽出及び達成課題の設定」とした。この場合の重要成功要因は、いかにそれを可視化、共有できるかであるが、通常業務ではなかなかそのような機会が持ちにくいのが現状である。2020年までは「外部研修会での研究発表」を行うことで、その過程においてケアの見直し、整理が行えるよう計画していたが、新型コロナウイルス感染症の国内発生状況から、外部研修の中止等があるため、また自施設だけの研究にとどまらず、法人間にて共有することにより、法人全体のサービスの質の向上につながることから、「法人内研究発表会の開催」を業績評価指標とした。

また、ホームページ上で研修発表動画などを掲載しコンテンツ化する。

#### ＜地域に対する基本姿勢＞

##### ・地域ネットワークの構築

：地域における公益的な取り組みを行うためには、地域ニーズの把握が必要であるので、「地域ネットワークの構築」を展開目標とし、まずは地域における研修会や勉強会を行い、地域力（互助）の向上支援を行う。新型コロナウイルス感染症禍において、これまでの集合方式の開催は難しくなっているため、オンラインや文書通信などにて、地域高齢者の把握や関係各所とのネットワーク作りを行う。特に近年頻発する豪雨災害等において福祉避難所として十分機能するよう地域の要介護状態の方の避難時における支援や受け入れのマニュアルを、感染症予防も含んだものに

見直しを行う。、

・インターネットの活用

：新型コロナウイルス感染症禍にあっても、利用者本位のため、当法人が行っている工夫や実践をホームページ上で発信していくことにより、ご利用者家族の安心や地域への浸透を行う。さらに伝わりやすく、また採用活動の一環としても、ホームページ上に動画ページを設け、さらにはレイアウトを変更し、より伝えたい情報、伝えたい相手を絞り込み、双方向のマッチングができるように「インターネットの活用」を展開目標とした。

<福祉人材に対する基本姿勢>

・新規人材の確保及びブランド力向上

：現在、全国的な介護職員不足が問題となっている。当法人においても同様の問題があり、通常的なハローワークや広告等による人材確保に加え、他法人との違い（法人の歴史・規模・資格手当の充実、教育体制等）を積極的にアピールしていく。特に「あかり園」という名前は非常に知名度が高い為、インターネットの活用と併せて、各地区において独自の就職説明会を開催する。かつ立ち寄りやすい雰囲気で、気軽に何でも聞けるようにスタッフ主導によるカフェ形式の「介護ジョブカフェ」として行う。新型コロナウイルス感染症禍において、集合形式が難しい場合は、「オンライン介護ジョブカフェ」を企画する。またオンライン形式のみならず、今後は集合形式とオンライン形式を組み合わせるなど、遠い地域や県外の学生にも、参加しやすい形式での開催やホームページ上で就業希望者向け動画を掲載するなど発信力を高める。このように、長い歴史のある当法人において理念は変わらず、その取り組みは他に先立ち常に変化していくことを印象付けることによって「新規人材の確保及びブランド力向上」の展開目標を達成させる。

・法人内研修体制の充実

：1年目、2年目、3年目研修を本部集合研修と拠点ごとの研修に分け、とりわけ離職率が高いと言われている3年目未満の職員のモチベーションアップ、スキルアップができるよう、学びをつなげていく。そのためには、各拠点に法人研修とリンクした研修を行える研修指導者を配置し、人材育成体制を構築することが必要であるため、「法人内研修体制の充実」を展開目標とした。

・専門的技術者の確保

：現在、県内外において4年生大学の社会福祉学部の廃止や介護福祉士養成校の減少を受け、新規採用職員は福祉コース以外も含め高校生卒業者が中心となっている。認知症への対応力向上に向けた取り組みも求められる中で、専門的な教育を受けていない新卒者も多く、その為の教育・育成が必須である。

したがって、上記目標に加え、法人内にての全職員に対する研修システムの強化及びそれを行える指導者の育成が課題であり、業績評価指標を外国人職員受け入れも視野に入れ、「**国内外の専門的職員の確保のための実習担当者育成**」とした。

- ・マネジメントできる職員の育成

：将来、事業運営について中核的役割を担える福祉系の大卒者の採用、育成を行う。関係大学やPRや県内外からもアクセスできるよう、ホームページによる事業内容の動画配信やインターンシップなど積極的に行っていく。

# 『防府地区』

## 【拠点共通】

### 〔基本方針〕

#### 1. 経営に対する基本姿勢

##### 「法人内組織強化」

- ① 介護人材の確保・定着の推進を図るため、キャリアパスに関する仕組みを法人本部の導入計画に沿い構築し、働きがいのある職場づくりを行う。

##### 「リスクマネジメント」の推進

- ① 特養のみならず、各事業所に安全対策部門を設置し、事故発生の防止と発生時の適切な対応を実践する。
- ② 主任会議に於いて、各事業所で発生した感染症や介護事故、クレームの中で重大な事項等について報告し、その再発防止に向けサービス提供上の課題等を整理分析し、共通財産として活用する。
- ③ I C T化を推進するにあたり、情報セキュリティに関する職員の意識向上に向けた取り組みとして、情報セキュリティ研修を行う。

##### 「安定した財務基盤の確立」

- ① 入所系の施設(特別養護老人ホーム、軽費老人ホーム、グループホーム)に於いては、待機者の確保と円滑な入所調整を行い、実利用率95%(グループホーム98%)を目標値とする。
- ② 主任会議に於いて、毎月の事業計画の進捗状況、目標利用率進捗状況を報告し、出来ている事出来ていない事を明確にし、取り組むべき具体的な課題を設定し実践する。
- ③ 業務の効率化や業務負担の軽減を推進するため、記録システムの運用の開始と I C Tの活用による業務の効率化を推進する。

#### 2. 支援に対する基本姿勢

##### 「法人の理念の理解と実践」

- ① 利用者満足度の向上を推進するため新しい生活様式を踏まえたサービス提供の構築に向け、各事業所とも年1回満足度調査を実施し、法人の理念に沿ったサービスの提供ができているか達成度を図り、利用者や家族の意見・要望を反映させる。

##### 「サービス体制の充実」

- ① 感染症及び自然災害に備える業務継続計画書をマニュアルと連動した効果的な計画として策定し、有事に備えたシミュレーション・訓練を実施する。
- ② 感染症及び自然災害発生時に、地区内各事業者間に於いて組織力を活かし、マンパワーの応援体制や物資の支援などの協力体制を構築する。

#### 3. 地域に対する基本姿勢

##### 「地域ネットワークの構築」

- ① 地区社協や民生委員、自治会、防災士等地域の多様な関係各機関との連携や協働を図るため、オンラインや文書通信を活用した情報発信、会議への参加など、地域ネットワークの構築を推進する。
- ② 市の危機管理課との連携により、避難所の利用対象者の確定、避難所として機能するための支援体制の構築に向け協議し、受け入れ時のマニュアルを作成する。

#### 「インターネットの活用」

- ① ホームページを活用した広報活動を行い、各事業所での日々の活動の様子やサービスの質の向上のために取り組んでいる実践内容を発信し、地域住民や家族、求職者等に幅広く働きかけ、開かれた事業所を目指す。

### 4. 福祉人材に対する基本姿勢

#### 「新規人材の確保及びブランド力向上」

- ① 新規人材の確保のため、採用ツールの見直しを図り、求職者の視点から興味が高まるように、パンフレットの見直しや、オンライン形式のジョブカフェで使用する動画の編集、ホームページを活用した施設紹介など、伝えるべき必要な情報要素を過不足なく提供する。
- ② 求職者との接点を多く持つため、求職者のニーズに応じてオンライン形式を含めたジョブカフェの開催、ハローワークの活用、求人広告、学校訪問、人材派遣等採用チャネルを拡大し、効果的な活用を図る。
- ③ 小中高校における福祉教育への積極的な協力を通し、福祉の仕事に対する啓発に取り組む

#### 「法人内研修体制の充実」

- ① 法人研修とリンクした研修を行える研修指導者を配置し、職員のモチベーションアップ、スキルアップに対応することができるよう人材育成体制を構築する。
- ② 専門性の向上に向け、資格取得支援を充実するため、業者との協力により介護福祉士取得のための実務者研修の開催、本部の協力による社会福祉士取得のための勉強会の開催を行う。

#### 「専門的技術者の確保」

- ① 体系的な研修プログラムを構築するため、外部研修等に派遣し、研修担当者を育成する。

#### 「マネジメントできる職員の育成」

- ① 将来、事業運営について中核的役割を担える職員の採用に向け、実習やインターンシップの受け入れ等を通し大学との連携を強化する。

### 【特別養護老人ホーム防府あかり園】

- ・昨年度取り組んだ“協力歯科医院と連携した口腔衛生管理”が体制として定着しており、更に歯科医師や歯科衛生士の助言のもとで、より効果的な口腔衛生管理に繋げていく。
- ・有資格者（P.T）の機能訓練指導員を配置し、多職種との連携体制を強化し、生活リハ

ビリを中心に機能低下の防止や、従来寄附講座の中で取り組んできた肺炎予防への取り組みを継続発展する。

- ・効率化による負担軽減や記録の一元化を図るため、西日本オフィスマネーションと連携して導入中の音声入力記録システムを更に進めて実用化する。

### 【防府あかり園デイサービスセンター】

- ・常勤と非常勤の割合見直すと共に現状のサービスの質を落とさず、業務が遂行できる体制を構築する。
- ・平日一日当たりの利用者数が30名以上になるよう常に新規利用者の確保に向け、毎月居宅支援事業所や包括支援センターと情報交換を行い、定期的に(年4回)ホームページに活動内容をアップロードする。
- ・法人の理念や期待する職員像を明示し、専門的な知識や技術の習得と、組織の一員として働く力や倫理観の醸成を含めて新採職員の育成をおこなう

### 【防府あかり園デイサービスセンターであり】

- ・利用者を確保し健全な運営を行うために、居宅支援事業所との連携を毎月行い、一月あたり2名の新規利用者を増やし、既存の利用者の要介護度や状態の変化に伴う利用回数の見直しを行う事に依り収益を増やす。
- ・自治会長、防災委員と連携をとり、地域の防災拠点として協力する。

### 【防府あかり園在宅介護支援センター】

- ・事業運営の安定化のために特定事業所加算を継続して算定し、人員体制の見直しを行うことで一人あたりの受け持ち件数を30名以上とし、収支の改善につなげる。
- ・主任介護支援専門員有資格者を増やし、ケアマネジメントの質の均一化によって、困難な事例であっても誰もが柔軟に取り組める対応力を習得する。
- ・地域包括支援センターとの関係を強化し、地域における生活課題の抽出や社会資源の開発等の地域づくりに貢献する。

### 【訪問介護事業所】

- ・新規利用者の獲得にむけ、軽費老人ホームの職員や居宅介護支援専門員との連携を密にしながら、サービスの必要な利用者へのアプローチを通し、過不足のないサービスを迅速に提供できる体制を構築する。
- ・職員の高齢化に伴い、常勤換算2.5人を維持し、特定事業加算Ⅱを継続できるように計画的に職員の補充を行う。

## 【グループホーム防府あかり園】

- ・入居者のフレイル対策の一環として、噛む力を維持し低栄養状態や誤嚥による肺炎にならないために、歯科医師や歯科衛生士等専門職による口腔ケアの技術的助言や指導を受け、口腔衛生管理体制を整え加算も取得する。
- ・ウイズコロナを意識し、感染症の予防を徹底しながら、家族や地域との交流の機会を増やし、社会や人とのつながりを持つことにより認知症の進行を防ぎ、生活の中に楽しみを感じることのできる支援を行う。

## 【防府あかり園グループホームいちえ】

- ・感染症予防対策を講じながら家族や知人、なじみの地域との継続的な関わりが持てるよう面会や外出の支援を積極的に行う。
- ・利用者の健康管理を強化し入院者を削減するため、BCP計画に沿って感染症の発生及び拡散を防止すると共に、利用者の体調変化に留意し、急変時の医療機関との連携を速やかに行う。

## 【防府西包括支援センター】

- ・R4年度センター内の定例研修で抽出した高齢者の課題(金銭管理のできない生活困窮者への対応、高齢者の就労問題、高齢者のペット問題等)をテーマに、地域ケア会議(ブロック会議)を開催し、多職種で意見交換をする場を作り解決に繋げる。
- ・高齢者、その家族、生活困窮者等複合的な問題に対応することができるよう外部研修会へ積極的に参加し、職員のスキルを向上させる。

## 【防府温泉ホーム】

- ・感染症の予防と日常生活の継続を両立させ、施設内で感染症が発生した場合においても活動機会を過度に制限することや削減することなく、同時に感染拡大の予防を図ることのできるBCPの策定・見直しを定期的に行ない、安定した施設運営を持続する。
- ・職員の対応力を向上させるためにOJTを強化し、施設内外の研修に参加する機会を増やし、一人一人が知識やスキルを身に付け、入居者の方との密な信頼関係を築き、ニーズ(要望や困りごと)や体調の変化に対し、早期段階で迅速に対応ができるようにする。
- ・施設の建替計画及び建替時期については、引き続き検討していく。

## 《宇部地区》

### 【拠点共通】

#### 【基本方針】

##### 1. 経営に対する基本姿勢

入所施設については実利用率95%、全事業については新規利用者数前年度比増を目標とすると共に、拠点内の各事業が相互に連携・協働できる風土作りを行う。また、エネルギー費用や物価の高騰など社会情勢の変化に対応し、業務及び費用支出の効率化について課題の抽出をすすめる。

- ① 関係する事業所等への訪問や連携を強化し、自サービスをアピールすることにより新規利用相談件数を増やす。
- ② 前年度に続き特養・ケアハウス・通所・訪問・居宅・包括の事業取組みプレゼン会を実施する（年1回）。
- ③ 既存のシステムで出来る文書データの整理、管理、統合等、及び高騰する費用の抑制を目的とした課題抽出を進める。ＩＣＴ活用についての学習や研修等に参加する。

##### 2. 支援に対する基本姿勢

新型コロナウイルス感染症への対応など高齢者を取り巻く情勢が変化する中で、改めて利用者本位を念頭に置き、利用者・家族からの様々な意見を集約し、活動の再開や新たな企画に反映させることでニーズに柔軟に対応していく。感染症、自然災害対策については、計画の初版をもとに業務継続のマネジメントを進める。

- ① 定例のアンケート及び行事、個別援助の場面での意見を集約する。
- ② コロナ禍で取り組んだ小規模活動を継続し、自前厨房の特色を活かした楽しめる食事新メニュー（年4回）を実施し、その都度、満足感や充実度を把握する。
- ③ 「感染症（平常時の）対策取り決め表」を過去の実績及び今後の情勢に合わせて適宜更新、共通認識のもと業務を進める。自然災害用も含め、必要物品（在庫）の計画的整備、各事業での実務に即したシミュレーション（訓練）を実施する。

##### 3. 地域社会に対する基本姿勢

地域関係団体の活動の再開と連動し、積極的な交流と具体的な連携をすすめる。加えて、多様な形態での施設の魅力発信の機会を創出する。

- ① 地元中学校との交流（吹奏楽部演奏や総合学習での施設利用）や各種ボランティアの再開交渉を行う。
- ② 地区行事への積極的参加、地域健康教室を継続する。また、行政等と連動して福祉避難所運営マニュアルの作成を行う。
- ③ ホームページ活動報告（動画含む）掲載を継続し、デジタル機器でのPRができるよう、そのアピール写真素材を収集する。

#### 4. 福祉人材に対する基本姿勢

来園・オンラインに加え、外部（学校等）に出向いての採用活動や業務分割、パートなど多様な働き方に対応した人材採用を検討する。人材育成については、各専門職の専門性向上のための研修企画等を行う。

- ① 介護ジョブカフェの開催（年1回以上）、学校内進路ガイダンスへの参加（前年度実績は4回）、ハローワーク会社説明会参加（毎月1回）を行う。
- ② 法人研修や外部研修への積極的受講、外部講師招へいによる施設内研修の開催を行う。
- ③ スキルアップ資格取得のためのサポート（勉強会等）を行う。

#### 【特別養護老人ホーム 宇部あかり園】

- ① 入所判定対象者名簿の更新を3ヶ月に1回（前年までは6ヶ月に1回）とし、入所案内を迅速に行う。市内の病院等（退院支援）と連携し、新規入所とショートステイ利用の相談件数を増やす。
- ② 個別機能訓練加算Ⅱ等のLIFE関連加算を算定する（科学的介護推進体制加算、褥瘡マネジメント加算は前年度算定済み）。また、フィードバックデータを整理し、施設内研修とリンクさせることにより、PDCAサイクルを実行する。
- ③ 面会制限を段階的に緩和することと並行して、長期にわたる感染対策により施設から遠ざかってしまった家族に向けた「活動情報」を年4回送付する。

#### 【宇部あかり園 デイサービスセンター】

- ① 介護支援専門員と連携し、生活状況や家族の介護負担の把握を行い、活動プログラム等を充実する。入浴支援（利用）等の提案をきっかけにケアハウスと緊密に連携し、利用日数の見直しや体験利用も含めたサービスの利用促進に反映させる。
- ② 趣味活動や創作活動、文化祭への作品出展など、利用者個々の趣味や特技を活かした活動を増やし、その取り組みを広報する。（デイサービス便り、ホームページ活動報告、各年6回以上）
- ③ 定例会議、ミーティング時に、送迎時の体調確認などの平常時の感染症対策や初動対応について確認する。

#### 【宇部あかり園 訪問介護事業所】

- ① ヘルパーは一人で訪問することから、訪問時の体調変化に対する観察力、判断力を習得することを目的に、感染症を含む定期的な事業所内研修等を実施する。
- ② 予防・介護問わず新規利用者を確保する。
- ③ 介護経験があるがブランクがあるなどの潜在化した人材の発掘を事業所でも主体的

に取り組み、ヘルパーの人材（登録ヘルパー含む）を確保する。

### 【宇部あかり園 在宅介護支援センター】

- ① 利用者の家族が持つ複合的な課題（介護面、経済力、意見の相違等）に対し、利用者主体のケアマネジメントにおける家族支援（家族との向き合い方）を確認し合うなどの事例検討会を定期的に開催する。（1回/2ヶ月）
- ② 外部研修参加機会を増やす。（相談援助のスキルアップや事業所間連携、デジタルスキルに関する研修等）
- ③ 感染症や災害時等の利用者の生活継続の観点から、感染症対策シミュレーション（他事業所との合同含む）を行う。また、在宅利用者個々の自然災害時リスクアセスメントを行う。

### 【宇部温泉ホーム】

- ① 介護保険サービス、病院併設による「安心して暮らせるケアハウス」をアピールし、行政（出先機関含む）、包括センター、医療機関、ケアマネ事業所等に訪問（前年度訪問数の31件以上）し、新規入居者を確保する。
- ② 軌道に乗りつつある映画上映会、ゆるりウォーキング、入居者講座にフレイル予防も盛り込み、健康増進、楽しみ創出の場を提供する。
- ③ 感染症対策について施設側から求める制限事項の内容を精査し、入居者と感染症予防についての共通理解を図りながら、段階的に緩和することで生活の自由度を高められるようにする。

### 【宇部市東部第2地域包括支援センター】

- ① 圏域の民生委員やサービス事業者等関係者との連携会議に参加する。「顔の見える関係」（対面）で情報共有することにより、コロナ禍で潜在化した地域課題の把握、課題の早期発見に繋げる。
- ② 自粛で活動が出来なかった出張型教室を積極的に再開し、介護予防普及活動に取り組む。（年12回以上）
- ③ 広報誌の年3回発行、地区行事や介護健康相談、出前講座を通じて、センターの認知度を高める。

## 《宇部西あかり苑》

### [基本方針]

#### 1. 経営に対する基本姿勢

他職種間での情報共有と日々のリスク管理を行うことで、重大な事故防止に努める。また、医療と介護の連携により生活の場のすみ分けを行い利用者が安心できる生活を提供するとともに、在宅等での生活困難者や病院からの退院者の円滑な入居につなげ社会資源の有効活用に努める。

① リスクマネジメントの推進

- ・ヒヤリハット報告の提出を推進し、フロアで発生原因や再発防止策について討議したうえで、介護事故防止委員会の場を利用し苑全体で共通認識を持つ。
- ・感染症予防を継続し、かつ感染症発生時には円滑な初動活動が行えるように、フローチャートの見直しを行う。

② 安定した財務基盤の確立

- ・長期的な入院が見込まれる方や在宅生活困難者等の情報を取得するために、MSW やケアマネと密に連絡を取り合い、円滑な入退去支援を行うことで 1か月以上の長期入院を伴う退去者の減少と平均空床日数 10 日以内を目指す。
- ・待機者が減少してきていることから、宇部市、山陽小野田市方面の居宅介護支援事業所や病院等への施設状況の情報を発信し待機者を確保する。

## 2. 支援に対する基本姿勢

家族との繋がりを大切にし、丁寧なあいさつを徹底することによって、心にゆとりをもち相互に話しかけやすい雰囲気や利用者、家族が安心できる関係性を構築する。

① 法人の理念の理解と実践

- ・満足度調査を実施し、心を込めたあいさつが実践できているか確認する。
- ・家族との連携を図る為に、日ごろ面会に来られない家族へも 1か月に 1 回は電話連絡をし、日ごろの様子を伝え、満足度調査にて職員の話し方や頻度が適切であったか確認をする。

② サービス体制の充実

- ・豪雨期に備え 6 月までに水害に備えた垂直訓練を実施し、抽出された課題を苑内の会議で意見交換を行い、意見をもとに利用者状況の確認と災害に対する意識向上を図る。
- ・利用者が安全に生活できるように、災害に対する BCP を作成する。

③ 安心・安全の環境整備

- ・空調設備の老朽化に伴い共有場所の空調設備を計画的に更新し、利用者が快適に生活できる環境を整える。

## 3. 地域社会に対する基本姿勢

地域社会の新型コロナウイルス感染症予防に対する指針の見直しに伴い、地域活動へ参加することで顔の見える関係性づくりを再構築する。

① 地域ネットワークの構築

- ・地域活動や行事に参加し地域住民との交流を図り、情報共有できる基盤を再構築する。

- ・自治会館等で開催される地域学習会へ参加し、車いすを使用した介護体験や簡単な介護技術等を学ぶ体験型の相談会を開催する。
- ② インターネットの活用
- ・行事等のショート動画を掲載し施設内の様子を広く周知する。

#### 4. 福祉人材に対する基本姿勢

施設の魅力を高め、動画などで発信することにより、新たな雇用を確保する。また、安心して仕事ができる環境をつくり離職防止に取り組む。

- ① 新規人材の確保及びブランドの向上
- ・下関市を含めた県西部の高校への求人や施設案内を行い、広く周知を行う。
  - ・職場の雰囲気や仕事の様子が分かりやすく伝えられるよう求人用ショート動画を作成する。
- ② 人材の定着に向けた取り組み
- ・新任職員の指導者を選任することによって、相談しやすい環境づくりを行う。

## 《山口地区》

### 【拠点共通】

#### [基本方針]

##### 1. 経営に関する基本姿勢

- ① 法人経営会議の議論を踏まえ、施設の有効活用を推進し、効率的に業務を執行する。
- ・地域の福祉医療専門機関との連携や民生委員や社協等への情報提供に心がけ、ホームページや各種行事を通じ、施設の特色を地域住民に発信し、その有効活用を促進。
  - ・待機者の現状把握、円滑な入所調整を行い、入所系施設（特別養護老人ホーム、有料老人ホーム、ケアハウス）では、実利用率 95%（ショートステイ 85%）を目標。
  - ・見学や体験利用による PR、短時間利用の受け入れを促進し、通所サービスでは、利用者 10%増。
  - ・理学療法士の採用による機能訓練の充実と加算の取得
  - ・高騰する水道光熱費をはじめ、不要不急の支出の抑制、県市等の補助事業の活用、事務文書の簡素化、ＩＣＴの導入等、経費の削減と事務事業の効率化の推進。
- ② 高齢弱者を抱える集団施設として、深刻な感染症や増加する大規模災害等に備えた危機管理体制を強化する。
- ・感染症情報を適時、収集・活用し、感染症予防と発生時の対応方針を徹底し、発症ゼロの推進。また、万一発生した場合は感染マニュアルに沿って迅速な感染防止対策の実行。特に、新型コロナウイルスに対しては、感染症法上の位置づけや国の基本的対処方針の見直しが検討されていることから、次の事項について柔軟かつ迅速に見直

し、実行。

- ・面会の方法、制限のあり方
  - ・職員の行動自粛や感染またはそのおそれがある場合の勤務の制限
  - ・ワクチン接種、PCR検査の必要性、時期
- ③ 事業継続計画の策定
- ④ 定期的な避難訓練による自然災害時の迅速な処理体制の構築
- ⑤ 事故や苦情・要望に対する真摯かつ迅速な対応と、利用者・家族との信頼関係の構築

## 2. 支援に対する基本姿勢

複合的な高齢者施設として、時代の要請や施設の特性、施設間の連携を踏まえたサービスを提供する。

- ① 法人の理念「常に利用者の立場に立って考え方行動する」ことをすべての職員が共有・実践
- ② I C T の活用をはじめ、介護保険制度の動向等、時代の要請に合ったサービス提供体制の構築
- ③ 各施設については次の通り、その特性に応じた重点的な支援に取り組む。

### 【特別養護老人ホーム山口あかり園】

- ・重度化が進む中で、日常的な健康管理の徹底による、入院・重篤化の防止
- ・振り返りや検証による家族から信頼される看取り介護の実施
- ・教育研修体制の充実、I C T の活用による職員のモチベーションの向上

### 【山口あかり園デイサービスセンター】

- ・関係機関との情報の共有を強化し、新規利用者の確保（目標：1日平均40人）
- ・在宅ニーズに合った利用しやすいプログラム構成の実施と、利用状況に応じた職員配置の見直し

### 【山口あかり園訪問介護事業所】

- ・事業所内研修の強化とマニュアルに沿った感染対策の実施

### 【山口あかり園居宅介護支援事業所】

- ・公正中立で質の高いケアマネジメントの推進と適正な担当件数（1人39件）の確保
- ・毎月の定例会議による情報の共有や二人担当制による、職員間の協力連携体制の強化

### 【グループホーム山口あかり園】

- ・利用者の個々の認知症の状態に合わせた個別ケアの実施
- ・コロナ禍における園内での行事、余暇活動の充実

### 【山口温泉ホーム】

- ・コロナ禍の中での適切な予防対策の徹底と各種余暇活動や行事の充実
- ・健康づくりのための「いきいき百歳体操」や「生活教室」の定期開催
- ・月1度の郷土料理や鍋献立の提供
- ・老朽化するボイラー設備に備えた居室エアコン（本館）の整備

### 【有料老人ホーム山口あかり苑】

- ・入居者の状態に応じた機能訓練の実施やレクリエーションの導入等、入居者の満足度の向上
- ・実施後の検証や振り返りによる家族に信頼される看取りケア体制の整備
- ・老朽化が進むエアコン・消防機器の更新

### 【山口市鴻南地域包括支援センター】

- ・毎週の定例会議（介護予防会議）での課題解決に向けたケース検討や情報共有による職員の資質の向上
- ・介護予防・フレイル予防及び百歳体操、介護予防出張講座の新規開始による介護予防事業の拡充
- ・「認知症サポーター養成講座」の開催地域や回数の拡充

### 3. 地域社会に対する基本姿勢

社会福祉施設としての役割を自覚し、地域の新型コロナウイルスの感染動向をみながら、地域との交流、地域貢献の取り組みを推進。

- ① 納涼ふれあい祭りや生活教室の開催、保育園との交流等を通じた地域貢献活動の展開
- ② シルバーハウジングでの認知症カフェの実施
- ③ 職場体験、ボランティアや実習生等の受け入れなど地域との交流の促進
- ④ 資源回収や河川清掃、交通安全運動への参加など地域の一員としての貢献活動の推進
- ⑤ 市の防災危機管理課や地域と連携し、福祉避難所として機能できる体制を整備

#### 4. 福祉人材に対する基本姿勢

厳しい雇用情勢の中で、様々なルート、方法を講じ、可能な限り職員の確保に努めるとともに、人材を大切にし、職員の能力が最大限に發揮できる職場づくりを展開。

- ① ハローワークや職場・地域のネットワーク活用、職場見学会(ジョブカフェ)の開催、専門学校等への働きかけ、ホームページを通じた施設の魅力や特色のPR等、多面的な人材確保の取り組み
- ② 障害者や高齢者雇用、介護助手制度の積極的な活用
- ③ ストレスチェックの活用、育成面談や職員の自己評価の取り組み
- ④ 施設内でのOJTの確立やオンラインを活用した外部研修会、事例発表会への参加、さらには資格取得への支援

### 《秋穂地区》

#### 【拠点共通】

##### [基本方針]

###### 1. 経営に対する基本姿勢

###### ① 健全で安定的な財務規律の確立

- ・稼働率を向上させるため、空床期間を20日以内とし、年間の目標を特養・グループホーム実利用率95%、ショートステイ利用率85%、ケアハウス毎月1日付96%とする。
- ・利用希望者及びその家族等の情報を一元化し、その後の状況を追いかながら利用につなげていく。
- ・地域包括支援センター及び居宅介護支援事業所の介護支援専門員等、医療機関や関係事業所のソーシャルワーカー等とタブレット・スマートフォンを駆使し、連携を強化する。

###### ② 組織統治の強化

- ・このコロナ禍3年間の教訓を活かし感染症や災害への備えを万全にする。
- ・災害時・感染症発生時のBCP(事業継続計画)に基づいた訓練を行う。

###### 2. 支援に対する基本姿勢

###### ① サービスの質の向上

- ・隣接クリニック閉所に伴うダメージを最小限に抑え、近隣の医療機関と連携し医療ニーズに対応する。
- ・サービスの質向上を目的に満足度調査を実施する。
- ・本格的な社会活動の再開に伴い、面会方法等新しいスタイルを確立させる。

###### 3. 地域社会に対する基本姿勢

###### ① 地域推進社会の推進

- ・(旧) デイサービススペースの有効活用のため、山口市川東地域包括支援センターと連携しながら、認知症カフェを開始する。
- ② 信頼と協力を得るための積極的な PR
  - ・月1回以上ホームページを更新、年1本以上の動画をアップする。

#### 4. 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 人材の採用に向けた取り組みの強化
  - ・積極的な実習生の受け入れにより、学校に対して事業所のPRをしていく。
  - ・集合形式のジョブカフェを行い、事業所の雰囲気を肌で感じていただく。
- ② 人材の育成に向けた取り組みの強化
  - ・集合形式の研修に積極的に参加し、外部の刺激を受けながらよりよいケアにつなげていく。ユニットミーティング等、コミュニケーションの場を増やしていく。
  - ・法人研修・施設内研修・外部研修を活用し、復命発表の場を設ける。

#### 【特別養護老人ホーム秋穂あかり園】

- LIFE（科学的介護情報システム）のフィードバック情報を活用し、課題を挙げながら取り組み、ケアの質を向上させることにより、稼働率の向上につなげていく。
- ① 新たに山口リハビリテーション病院と連携し、入院延べ日数を短縮する。
  - ② 感染症対策と施設の開放のバランスをとりながら実施し、家族対応も丁寧に行っていく。

#### 【グループホーム秋穂あかり園】

- 利用者の安全・安心のために誰もが緊急時の対応がスムーズにできるようになる。
- ① 119番通報訓練をはじめ毎月研修会を開催する
  - ② 医療機関との連携がスムーズにいくように医療知識を身につける

#### 【秋穂温泉ホーム】

- 要介護状態となる前から入居できることをしっかりとPRし、入居者を獲得していく。
- ① 県央部（山口市・防府市・宇部市）の医療機関・地域包括支援センターと顔の見える関係を築き、信頼を得て実績を重ねていく。
  - ② 感染対策をとりながら、徐々に外出行事を増やしていき、利用者の生きがいを支援していき、外部にしっかりとアピールする。

# 《秋楽園》

## 【拠点共通】

### [基本方針]

#### 1. 経営に対する基本姿勢

安定した経営基盤を構築し、健全な事業運営を行う。

- ① 行政、包括支援センター・居宅支援事業所、民生委員等と連携し、入所者・利用者を確保する。
- ② 既存の契約内容や仕入先・購入品目等を見直し、前年比1%の支出を抑制する。
- ③ 補助金・支援金等を積極的に活用し、加算（介護保険事業）も取得していく。
- ④ 建物・設備の維持管理を適切に行うとともに、不具合箇所等については、修繕・買い替え等の働きかけを山口市に積極的に行う。
- ⑤ 事故防止、苦情解決等のリスクマネジメント体制の見直し・整備を行う。

#### 2. 支援に対する基本姿勢

法人理念である「常に利用者の立場に立って考え、そして行動する」を実践し、サービスの質の向上を図る。また、安心・安全を基本としたサービス提供を行う。

- ① 対人援助の基本である「挨拶」を徹底し、満足度調査について、前年度を上回る評価にし「挨拶No.1事業所」を目指す。
- ② 自立支援・個別性を重視したサービス提供を行う。
- ③ 隣接クリニック閉院後の新たな協力医療機関との連携を強化するとともに、近隣の医療機関と調整し、より充実した医療体制を整える。
- ④ 感染症発生時や災害時の事業継続計画（BCP）の見直しを行い、必要な訓練を行う。
- ⑤ 感染対策を基本とした生活様式や行事等への取り組みを行う。

#### 3. 地域社会に対する基本姿勢

地域行事への参加・交流行事等を行うことにより、地域に信頼される施設を目指す。

また、施設の特性を生かし、地域貢献の取り組みをすすめていく。

- ① ホームページを年30回以上・動画1回以上更新し、事業所の活動状況等の情報を発信する。
- ② 近隣施設と共同で、地域を巻き込んだ取組み・地域に貢献できる取組みを行う。
- ③ 緊急時・災害時における避難所として機能するよう、山口市と連携し体制を整備する。

#### 4. 福祉人材に対する基本姿勢

職員の資質向上への取り組みを行い、働きやすい職場環境を整え職員の定着を図る。

また、様々な手段を用い人材の確保を積極的に行う。

- ① 職場内研修を充実させるとともに、法人内研修・外部研修にも積極的に参加する。
- ② ハローワーク・合同面接会・職場見学会等様々な手段を活用し、人材確保を行う。
- ③ 中核となる職員（生活相談員・主任）の育成を行う。

## 【山口市養護老人ホーム秋楽園】

- ・月初入所者数 85 名の確保にむけての取り組みを強化する。
  - 関係機関（包括支援センター・居宅支援事業所）へ定期的に訪問する。
  - 民生委員を対象とした見学会・事業説明会を行う。
  - 行政と密に連携を取りながら、入所決定者の判定会議実施月内での入所を行う。
- ・「契約入所」や「ショートステイ事業」について、実施に向けての検討・調整を行う。
- ・各部署の責任者、生活相談員に対し、リーダー研修を年2回行う。
- ・地域貢献・地域交流事業として根付かせるべく、「秋楽園イルミネーション」を進化させる。地元の保育園や地域コミュニティーセンター等の参加を継続しつつ、新たに、フォトスポットの設置や来場者参加型の企画を行う。

## 【山口市秋穂デイサービスセンター】

- ・秋穂幸楽苑通所リハの廃止に伴う利用者・職員の受け入れにより、営業日数の変更（介護：4日/週→5日/週、総合支援：1日/週→5日/週）、作業療法士（機能訓練指導員）の配置等の業務体制を変更し、利用者の選択肢を増やすことで、利用者確保につなげる。
- ・年間稼働率 75.0%（1日平均 25.5 名（介護 23.5 名・総合支援 2 名））を達成する。
- ・作業療法士による機能訓練プログラムを実施し、リハビリについてより充実させる。
- ・感染対策を講じつつ、利用者の生活歴や趣味等を活かしたクラブ活動や行事等のプログラムを充実させる。

## 《聖和苑地区》

### 【拠点共通】

#### 〔基本方針〕

##### 1. 経営に対する基本姿勢

###### ① 安定した財政基盤の確立

- ・毎月1回相談員会議を行い、地区内施設の問題や課題、財務状況、職員の配置等、各施設の運営状況について認識の統一化を行い、改善策等について検討していく。

###### ② リスクマネジメントの推進

- ・出火防止、災害防止の為、毎月1回施設設備点検管理を行い、不備欠陥のないよう安全の確保を行う。又、有事に備え備蓄食料や物品の確保・定期チェックを行う。

##### 2. 支援に対する基本姿勢

###### ① 法人理念の理解と実践

- ・施設満足度の把握と更なるサービスの質の向上のため、各施設の利用者を対象に満足度調査を実施する。
- ② サービス体制の充実
  - ・消火器や消防署とのホットライン、消火栓など、職員全員が防災設備の使い方が把握できるよう研修会を行う。

### 3. 地域に対する基本姿勢

- ① 地域ネットワークの構築
  - ・敬老会や文化祭など、地域の行事には積極的に参加、同時に施設行事などへの招待やボランティアの受け入れを活発に行い、地域との交流を促進する。
- ② インターネットの活用
  - ・支援が必要な方に必要な支援が届くように、地域に対する「見える化」を意識した施設活動の情報発信をするため、月2回以上ホームページを更新する。

### 4. 福祉人材に対する基本姿勢

- ① 人材の育成に向けた取り組みの強化
  - ・職員の専門性をより高めるために、全国救護施設研究協議大会や中国・四国地区救護施設研究協議大会への参加、及び山口県社会福祉協議会福祉研修センター主催の各種研修会等にオンライン等で参加する。
- ② 人材の定着に向けた取り組みの強化
  - ・現段階で該当事業所ではないが、働きやすい職場環境の構築と、職員が自分のメンタルの状況を客観的に気付く手段として、年一回ストレスチェックを行う。

#### 【救護施設聖和苑】

- ・各職員に対し3ヶ月ごとに苑長の面談を行い、職員個々の長所、課題点、次なる目標等を明確にし、モチベーションの維持向上につなげる。併せて、職員個々の支援スキルのアップ、事業所全体のサービスの質の向上にもつなげる。
- ・毎月1回虐待防止委員会を開催し、日常に潜む不適切な対応や利用者権利の侵害、虐待にあたる行為に対する防止のための取り組みを行う。
- ・カロリーを表記した献立を掲示し、利用者の食と健康に対する関心度を高める。

#### 【グループホームひまわり荘】

- ・食事内容の充実を図るため嗜好調査を行い、利用者の食事に対するニーズを把握する。  
又、月に1回夕食時に選択メニューを実施する。
- ・毎月1回グループホームミーティングを行い、社会情勢等をきめ細やかに伝達すると共に、利用者の「声」を聴く機会を増やす。

### 【ワークハウスすぜんじ】

- ・令和4年度目標平均工賃（約22,000円）から約3,000円アップさせ、現在取得している基本報酬を551単位から572単位の取得を目指す。
- ・コロナ禍で中止をしていたレクリエーション（特に日帰り旅行）を隨時再開し、利用者の心身のリフレッシュにつなげる。

### 【地域活動支援センターやまぐち】

- ・計画相談について、山口市基幹相談センターと連携し新規利用者12名の獲得を目指す。
- ・広報誌「フ rawer ポット」を毎月ホームページに掲載するなど、PR活動に力を入れる。又、障害者スポーツやその他行事にも積極的に参加し、事業所の認知度アップにつなげる。